

江戸川病院通信

あおぞらだより

第 269 号(発行/令和 7 年 12 月)



いらっしゃ
いませう☆



2025秋
デイケアつぼみ
バザー & カフェ



精神科病棟

～作業療法活動のご紹介～



〈大人の塗り絵〉

この活動では、ご自分で好きな塗り絵を選んで時間内取り組んでいただきます。(自己選択が困難な方はスタッフがお手伝いしています。) 塗り絵の活動は楽しめる趣味活動的一面もございますが、日中は起きて活動する、集中して1つの作業に取り組む、心を落ち着かせる、手指の運動等様々な目的も込められているのです。季節の草花、季節の行事、旬の食べ物や、動物等幅広いジャンルの塗り絵をご用意しております。

～7病棟の様子～

～2病棟の様子～
今回の2病棟はゲームを行っています。
ゲームの前に皆でプリントを行いました。ゲームは“秋刀魚ゲーム”です。
七輪で秋刀魚を30秒間、焼くゲームです。



〈体操〉

その他のプログラムの際にも、ラジオ体操等体を動かすことを取り入れておりますが、さらに自分の身体に意識を向けることに重点を置いたプログラムです。棒体操やペットボトル体操等道具を使ったものから、レクリエーションとしてゲームを行うこともあります、活動内容は幅広く、体を動かしてリフレッシュ出来るので皆様も楽しみにしています。



～3病棟～

机やいすを動かして、輪になって体操を行っています。輪になることで全体の様子がよく見えるので、新鮮な気持ちで集中して取り組むことができます。

11月25日に「第2回ぴあほんと」 が開催されました

野田圏域精神障害者にも対応した地域包括
ケアシステム構築推進事業



〈内容〉

当事者による体験発表
「統合失調症について」の講演
グループワーク



〈対象〉

当事者・家族・支援者・野田市の地域の方

■休診日のお知らせ■

年末年始は令和7年12月28日（日）～令和8年1月4日（日）まで外来及び窓口業務をお休みさせていただきます。

令和8年1月5日（月）より、通常通りとなります。

ご迷惑をおかけ致しますがよろしくお願ひいたします。

編集後記：この前まで猛暑で汗びっしょりの日々だと思ってたら、あっという間に朝夕冷える毎日になってしまいました。私は寒さ厳しい夜には腹巻きを着けて寝てますが、ホント効果バツグン！！腹巻の良さ、是非皆様に再認識してほしいと思う今日この頃です。それとこの年末にやらないといけないのは大掃除。毎年11月くらいから少しづつやらないとな～と思いながら、今現在はまださっぱり…調べたところ、日本の年末の大掃除は12月13日に『正月事始め』とされ、この日に煤払いなどの年末準備を始めるのが縁起が良いとされています。今年の12月13日は週末土曜日でスタートするには、丁度いいかも？早め早めに終わらせて年末はゆっくり過ごしたいと思います。（編集委員会）

『あおぞらだより』に関するご意見・ご感想・ご投稿などは『医療相談室』までお寄せ下さい。

医療法人社団全生会 江戸川病院
〒278-0022 千葉県野田市山崎2702
電話 04-7124-5511(代)
<http://www.edogawa-hp.com>

今月号は、新村ヨシオ先生からのご挨拶がございます。

御 礼

名誉院長

新村 ヨシオ

この度は、厚生労働大臣賞の表彰を受けるに当たり、この紙面を借りて皆さんへの謝意を表すとともに報告させていただきます。地域の精神保健福祉行政に貢献したという評価を戴き、表彰されることになりました。千葉県の精神保健福祉課から、表彰の該当者になっていることの連絡を受けて、初めて知りました。どういうことなのか戸惑いながら推薦理由を読んで行くと驚くことばかりでした。自身がすっかり忘れていたことを履歴書のように業績として丁寧に書かれていました。改めて、自身の足跡を思い出させてくれました。行政が記録してくれていたお陰で記憶を辿れ、高い評価を受けていたことに嬉しさを覚えました。被表彰者になることに恥ずかしさはありましたが、望外の喜びでもありお受けした次第です。

具体的には保健所で精神保健相談を始め、ひきこもりの医師としての聞き取りなどの新規事業への参加、家族会での精神疾患の啓蒙活動、見学会への参加など精神科の関連活動には参加したことが走馬灯のように想起されます。講演など市役所の仕事も依頼されれば、積極的に受諾しました。精神疾患者の社会復帰の意識が高まり、地域で支援するという気運が高まってきた処で医師の代表の立場で会議にも頻繁に参加していました。高齢者社会になってからは介護保険の導入時から認定審査会の委員にと委嘱され、認知症の増加に対応すべく行政のお手伝いが多くなってきました。障害支援区分認定委員会の審査も始まりました。認知症初期集中支援チームの専門医として参加しました。心身障害児就学指導委員会やいじめ対策委員会と学校関係の仕事も舞い込んできました。その他にも不定期に開催される委員会や協議会があり、病院を頻繁に留守しました。

本分は精神科病院の医師であり管理者でもあるのに、何のために外の仕事を引き受けたかという疑問を持たれた方も多いかったと思っています。これまでその理由を誰にも言ってはいませんが、入局当時から尊敬する教授に指導されてきたことでした。「行政は常に現実的で将来を見据えて対策することを考えている。行政とともに仕事をすることにより情報も早く入る可能性があるのでまずは自分達に役立つことになる。」「地域に密着する意識を持って仕事しないと発展はない。」、「それがひいては臨床に繋がり、患者さんのためになるのである。」とも言われました。その考え方方が現在の病院の理念となっています。反省としてはちょっと外の仕事に重きを置きすぎたかなあと思っています。

50歳代で脂がのりきっているときで疲れを感じないくらいでした。地域から依頼されたことを断ることはしなかったと記憶しています。自身に院内の仕事が残っているのに行政の用事で外出するのは委員会などの開始時間が決まっているからでした。何度かはある師長達に怖い顔?されて「先生、どっちの仕事の方が大事なのですか?」と牽制され、いつも後ろ髪を引かれる思いで出かけていました。全くもって反論できなかつたことを思い出します。留守を預かってくれた副院長や内科医長はじめ諸先生や病棟の看護スタッフそして精神保健福祉士には本当に感謝しています。それに講演や講義の資料作りそして今回業績の追加と修正してまとめてくれた当時の事務の主任はじめ協力してくれたスタッフには謝意を述べたく思います。病院の仲間が一丸となって私を支えてくれたお陰でこの栄誉をいただけたと思っています。本当に有り難う御座いました。